

2025年度 第8回 川崎市PPPプラットフォーム意見交換会 実施結果概要

事業名	稲田公園再整備事業
事業所管課	建設緑政局緑政部みどりの保全整備課
実施日時	令和8年2月2日（月）、令和8年2月4日（水）
参加事業者	全10社
対話方式	個別対話

意見交換会における主な意見等

①稲田公園及び周辺のポテンシャル	<ul style="list-style-type: none"> ・本公園は“地域住民の日常利用”が中心であり、広域集客は期待しにくい ・屋内遊び場・カフェ等の小規模商業はニーズが高く、収益化しやすい ・水遊び・じゃぶじゃぶ池・せせらぎ等の親水機能は利用増につながるが、維持管理コストが課題 ・プールは新設・維持ともにコストが大きく、仮設化または代替手法の検討が必要 ・自然・みどり・環境教育の価値が高く、ピオトープなどを活用した学びの場が有効 ・以前本公園で実施できていたBBQについて、再開してほしいという地元ニーズがあるが、再開するなら組数制限付きにするなどの制度整理が必要 ・駅から近だけでなく駐車場も整備されているなど、アクセスは強みだが、車動線や住民理解など周辺環境の条件整理が必要
②事業参画の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や他の企業との連携も視野に入れつつ参画の意思がある ・パートナー企業の確保や条件の整理次第で参画の意思がある ・DBO単独やDBOとP-PFIの組み合わせによる事業手法が効果的だと考える ・小規模P-PFI（収益施設や小規模整備を組み合わせる形）が妥当・現実的 ・指定管理者制度であれば積極的に参加したく、場合によってはP-PFIとの併用も想定できる ・指定管理者制度の場合、行政の事務負担軽減や常駐方法（日数や人数等）の整理が必要
③再整備の考え方（案）への意見	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内施設を設ける場合は、中と外の連携・導線・オープンスペースの配置等によって屋内外をつなぐ空間構成が重要 ・ミスト・ポップジェット・日陰・大屋根などを整備し、親水・暑さ対策・見守り環境を強化すべき ・地域利用・既存利用・住民意見を尊重しながら進めてほしい ・自然保全と利用のバランス、ゾーニング、生態系・樹木管理を重視し、自然環境との調和を図る必要がある ・固定せず可動式、リースで使用状況を把握するなど、可変性・柔軟な施設配置が重要である
④参画のための判断材料	<ul style="list-style-type: none"> ■市の負担すべき範囲 <ul style="list-style-type: none"> ・建物の整備は市が担い、民間は内部整備・運営を担う「公設民営型」が望ましい ・既存建物（児童プールの管理棟）や既存資産を活用した方が採算性が高い ■駐車場の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・大規模拡張は前提とせず、既存駐車場の“柔軟運用”で対応（ピーク・イベント転用・出入口や条例運用の工夫） ・運営方針と連携を明確化（誰がどう管理／料金・ルール／多摩沿線道路との連携強化） ・地域利用中心なら無理な拡大は不要 ・野球場利用・収益向上を重視するなら拡張の価値あり ■社会実験 <ul style="list-style-type: none"> ・社会実験は基本不要（既存データ・通常利用を基準に判断） ・社会実験は“手の内を見せる”ため行わない（ソフト力を重視） ・短期・小規模の実験（親水×キッチンカー等）は有効 ・ワークショップ等の“参加型プロセス”による意見収集を重視 ■今後必要となる資料 <ul style="list-style-type: none"> ・事業参画の可否を判断するためには、耐震調査を含む既存施設（児童プール・管理棟）の“詳細資料”が必要 ・指定管理者制度導入に向けた仕様書・募集要綱の事前調整、活動団体・陳情などの“運営に関する情報”が必要 ・事業検討に必要な説明会資料・環境整理資料等の追加情報が必要 ・公園利用者数データがあると、スポンサー・営業・外部事業者提案に活用できる

今後の対応

今回いただいた御意見を参考にしながら、検討を進めて参ります。

※上記内容については、参加事業者の承諾を得られたもののみ公表しています。

【お問合せ先】
 建設緑政局緑政部みどりの保全整備課
 電話：044-200-2390
 メール：53mihoze@city.kawasaki.jp